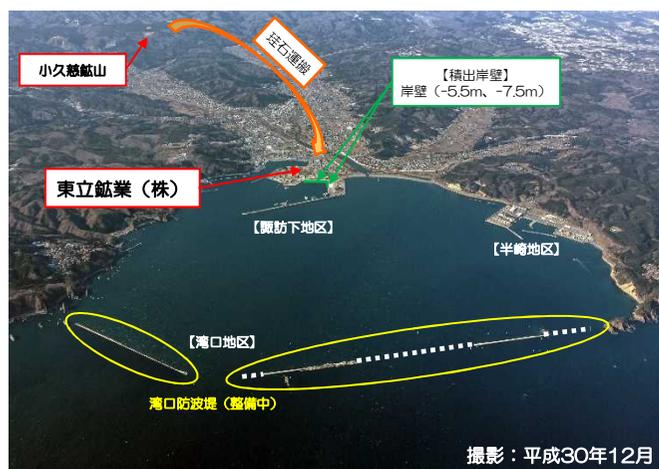


東立鉱業株式会社インタビュー (H30. 12. 5)

- 久慈港臨海部に立地し、珪石の採掘・生産・販売を行う東立鉱業(株)の大下総務課長に事業の内容や港の利用状況などについてお伺いしました。
- 背後の小久慈鉱山で採掘、生産した珪石を久慈港を利用して全国各地のユーザーに向けて供給しています。

～インタビュー要旨～

(聞き手：釜石港湾事務所 企画調整課長 菊池 傑)



▲東立鉱業(株)位置図

Q：事業内容は？

弊社は、建材・セメントの原料や製鉄高炉の温度維持のための燃焼材として利用される珪石の採掘～生産～販売を行っています。久慈港から約12km離れた小久慈鉱山で珪石を採掘し、建材用(25mm未満)、セメント用(40mm未満)、製鉄高炉用(10～30mm)と用途毎に適したサイズに破碎・ふるい分けし、製品として出荷しています。

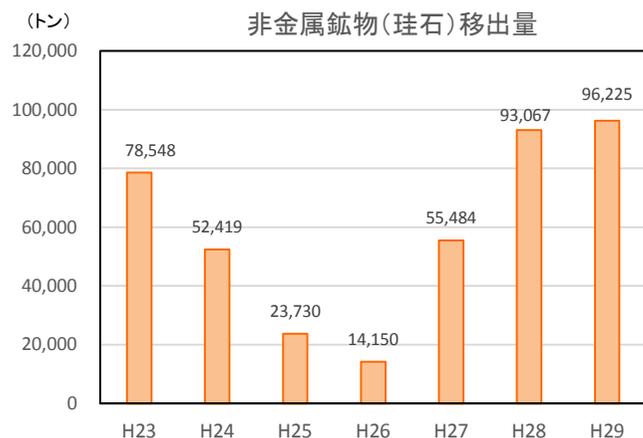
珪石の出荷先は、東北や北海道、関東圏に立地する建材メーカーやセメント製造工場、製鉄工場であり、出荷総量の7割以上が久慈港を利用して海上輸送しており、残りは八戸市内に立地するセメント工場まで陸上運搬しています。

Q：久慈港の利用状況は？

小久慈鉱山で採掘・生産した珪石は、久慈港諏訪下地区内のストックヤードまでダンプトラックで運搬・仮置きし、-5.5m岸壁及び-7.5m岸壁から1,500～2,300t程度を貨物船に積み込み、北海道や東北北部、関東圏に海上輸送しています。

最も取り扱いが多いのは建材用(外壁材(軽量気泡コンクリート))で、東京港等に約8,000t/月、年間約50,000tを移出しています。

また、セメント用として室蘭港や尻屋岬港に年間約35,000t、製鉄高炉用として木更津港に年間約10,000tを移出しています。





▲小久慈鉱山 新プラント



▲久慈港 珪石ストックヤード



▲珪石船積み状況

Q：今後の事業展開は？

全国各地の珪石鉱山は内陸部に立地している箇所が多く、港までの距離が遠いため、輸送コストが負担となって閉山傾向にあり、各ユーザーはリスク回避のために複数の珪石鉱山から調達する動きが強まっています。そのような中、弊社は久慈港が近距離にあるという優位性と小久慈鉱山で採掘・生産される珪石は高品質でブランド化してきていることから、高純度の品質が求められる建材等（軽量気泡コンクリートは純度95%以上）の引き合いが強くなり、近年では西日本からも需要が出てきています。

このような珪石需要の増加に対応するため、平成28年12月に小久慈鉱山に新プラントを整備したことで、日当たり2,000tの生産能力を有しています。また、現在の小久慈鉱山では採掘量に限界があるため、土地所有者と採掘場所を拡げる交渉を行っており、今後も増加が見込まれる珪石需要に責任をもって対応していきます。

Q：久慈港に期待することは？

久慈港湾口防波堤の整備進捗に伴い、弊社が珪石の船積みを行っている諏訪下地区内の静穏度は非常に良くなってきており、特に諏訪下外防波堤を越波する状況が改善し、船舶の安全な航行と安定的な荷役作業が可能となっています。

しかし、北東の風によるうねりの影響で、特に半崎地区の静穏度が確保されておらず、同地区の造船会社に搬入される鋼材の運搬船が荷役不可となる状況が生じており、沖出しや近隣港への待避を余儀なくされています。

久慈港内の静穏度向上と津波被害から久慈市民の暮らしや地域の産業活動を守る湾口防波堤の早期整備に期待しています。

大下総務課長様 お忙しいところインタビューさせて頂き、ありがとうございました！